

平成22年度地域スポーツ指導者育成推進事業 取組事例

都道府県名 滋賀県 受託団体名 財団法人滋賀県体育協会(広域スポーツセンター)

事業テーマ 次世代を担う子どもといきいき活動する高齢者のスポーツライフ実現を目指し、それを支える人間性豊かな質の高いスポーツ指導者育成システムの構築

【テーマ設定の理由】

人生の中でスポーツとの出会いの時期である子どもと社会の中心となる高齢者に焦点を当て、この二世帯がスポーツを生活に取り入れ、活力ある世代に育てることが、本県地域スポーツの発展と生涯スポーツ社会の実現のため実施する。

地域スポーツ指導者育成推進委員会

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 豊田則成(びわこ成蹊スポーツ大学教授) | 7 奥村晋一(県体育協会普及委員会委員長) |
| 2 伊藤紀子(県体育指導委員協議会会長) | 8 桐山栄(県体育協会選手強化委員会委員長) |
| 3 清水重夫(県スポーツ指導者協議会会長) | 9 北村太一郎(県健康づくり財団常務理事) |
| 4 前山亨(県レクリエーション協会会長) | 10 井下英二(県健康推進課健康づくり支援室室長) |
| 5 柴田光男(県スポーツ少年団指導者協議会会長) | 11 前田光治(県教育委員会スポーツ健康課参事) |
| 6 関原克己(総合型クラブ東近江市連絡協議会会長) | |

受託団体名 財団法人滋賀県体育協会(広域スポーツセンター)

【受託団体概要】

- ・設立年月日 平成 14 年 4 月 1 日 設立
- ・所在地 滋賀県大津市御陵町4-1 県立スポーツ会館2F
- ・特色
 - ・総合型地域スポーツクラブの育成支援事業の展開
 - ・スポーツ指導者の育成支援事業の展開と情報提供サービスの実施
- ・職員数(H22.4.1現在) 3 人
- ・平成22年度総予算額 6,279,000 円

協カクラブ(団体)

- | | |
|---------------|----------------------|
| ■ 県スポーツ指導者協議会 | ■ 県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 |
| ■ 県スポーツ少年団 | |
| ■ 県体育指導委員協議会 | |
| ■ 県健康づくり財団 | |

【上記機関・団体と連携をとった効果】

各講習会の参加者募集等の協力をいただき、特に総合型地域スポーツクラブではクラブ情報誌に講習会受講者数を明記するようになった。

①地域スポーツ指導者育成推進委員会

◆実施概要

9月、2月の年間2回実施し、平成22年度の事業展開について検討、また、より地域に密着した事業にするため地域拠点スポーツセンターとエリア別運営委員会と協力し、育成した指導者の活用と情報提供について検討。

◆活動の様子



◆評価

今後、より地域に密着した事業として継続していくため、各エリアのスポーツ関係者同士の意見や情報交換の場としてエリア別運営委員会を開催したことにより、各エリアの課題等が発見できたことと、各団体の繋がりができ様々な場面で協力体制が育ってきた。

プログラム作成部会

◆部会のねらい

地域や住民のニーズに的確に応じることができる指導者育成プログラム内容作成とシステムの構築。

◆実施概要

育成推進委員会開催と同時に年間2回実施した。レベルアップ講習については、各エリア別運営委員会の意見などを参考に、指導現場で必要としている内容4講座を実施した。また、テーマ講習については、事業のねらいである「中高年とスポーツ」をテーマに実施した。

◆活動の様子



◆評価

指導者を必要としている総合型地域スポーツクラブ関係者や学校関係者が、指導知識の必要性を確認してもらえるプログラム内容と現状に対応できるテキスト作成ができた。

発掘部会

◆部会のねらい

指導現場で必要・希望されている女性や若者の指導者を発掘・育成できるシステムの構築。

◆実施概要

育成推進委員会開催と同時に年間2回実施した。総合型クラブなど指導者を必要としている団体への働きかけを進めると同時に、指導者と依頼者のマッチングできるシステム作りを検討した。

◆活動の様子



◆評価

指導者の発掘・育成についてのシステムは完成したが、育成後の活用方法についてはまだ十分とは言えないので、今後は指導者が活かされるシステム構築が最大の課題である。

基礎講習会

◆講習会のねらい

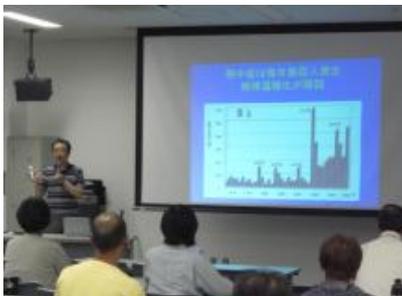
基礎講習 I では、スポーツ指導者として身に付けておくべく基礎・基本の知識と技能を習得し、地域の実態やニーズに応じた指導ができる人材を育成する。

◆実施概要

指導者としての基礎・基本知識と技能の習得を目指し、2日間集中型と5日間分散型で2回実施し、全課程修了者には修了証を発行。その後、検定試験を行い合格者は指導者情報システムに登録できるようにした。

◆参加者数 70名

◆活動の様子



◆評価

アンケート結果などから講習会内容については満足されていることがわかった。1年目に比べると受講者数は減ってはいるが、当初の目的であった女性と若年層の受講者は少しずつではあるが増加している。

テーマ講習会

◆講習会のねらい

健康や体力に不安を感じ始めた中高年や、運動不足になりがちな者に、年齢や体力に応じて無理のない運動を楽しく続け、健康の維持増進しスポーツ活動が生活習慣化できることを目的に実施した。

◆実施概要

①スポーツ科学から見た”笑い”、②エクササイズガイド2006、③介護予防に向けた筋力づくり”バンド運動を用いて”の3項目で実施した。

◆参加者数 105名

◆活動の様子



◆評価

特に、総合型地域スポーツクラブ関係の参加者が多く、バンドを用いた中高年向き手軽にできる運動は、即クラブに持ち帰って実践できると好評であった。また、中高年の身体的な特徴を理解し今後のメニューづくりに役立つと好評であった。

その他の取組

基礎講習の他に、指導者の資質や技量のレベルアップを目的に年間4つの内容でレベルアップ講習会を実施した。また、地域拠点スポーツセンターが中止になり、より地域に密着したシステムを構築するため、県内を4つのエリアに分け各エリアでスポーツ・健康関係団体や行政担当者など幅広い分野で委員を構成し運営委員会を開催し、各エリアでの課題や問題等について意見交換ができる場を設けた。

本事業の成果

指導者育成講習会や指導者のレベルアップを狙いとした講習会への参加について、身近で参加機会を提供することができるようになった。総合型地域スポーツクラブにおいては、指導者の重要性について理解を得て、各クラブで指導者育成に力点を置くようになってきた。

本事業の課題と今後の取組

この事業により、指導者の育成と資質向上に向けた講習会システムの構築ができ、その知識や経験を生かせる場の提供、依頼者と指導者をマッチングできるシステム整備が急務である。また、育成と活用の両輪がバランスよく動くように、総合型クラブや学校などと連携協働して事業を展開していく必要がある。